

## 受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業

期間：2019年7月25日～2020年1月31日

〔所員〕内田青蔵 安室 知

〔客員研究員〕田上 繁

### 三宅島郷土資料の公開と保存のための調査、研究(継続)

田上 繁

2015年度より田上繁ゼミの調査としてはじまった三宅島郷土資料調査は、現在日本常民文化研究所の受託研究として段階的に進展し、2019年度は農漁業従事者の貴重な記録として作成してきた「三宅島のオーラルヒストリー」シリーズの3冊目を刊行した。また、毎年行っている三宅島郷土資料館収蔵資料の整理・公開事業についても継続的に作業を進めた。

『三宅島のオーラルヒストリー3』は、2016年に行ったテングサの潜水漁に関わられた海女の方々への聞き書きを中心に、多様な生業を営みながら、戦争や度重なる噴火を経験された方々の「生きた」記録を残すことができた。昭和40年代を最盛期とするテングサ漁には、地元の方々だけではなく、三重県の鳥羽や遠く韓国から参加された海女さんたちがおられたこと、生きるためにさまざまな仕事をこなしている方が多かったことを知ることができた。話者になっていただいた方々には、心からの感謝を申し上げたい。

2019年度の調査は、8月28日（水）から31日（土）にかけて行った。はじめに、『三宅島のオーラルヒストリー3』の原稿について、話者の方々に確認を取っていただくための作業の打ち合わせを行い、原稿とそのデータを教育委員会の平井正人係長にお渡しした。そして、三宅島郷土資料館の資料整理について現状と今回の調査予定を確認し、今後の整理方針として、郷土資料館2階



写真1 「七島文庫」写真撮影の様子



写真2 「七島文庫」の整理作業

の「三宅島郷土資料館収蔵庫・展示室」に収蔵されている資料全体を「三宅島郷土資料館収蔵庫・展示室資料」と命名し、「七島文庫」やその後に搬入された資料も含めた全体の目録化を図ることとした。その後、継続作業となっている「七島文庫」の写真撮影・目録入力を進めた。

今回の作業で、「七島文庫」の収集・寄贈者である浅沼悦太郎氏について調べる過程で、かつて柳田國男が主導して刊行されていた雑誌「民間伝承」に同氏のことが書かれた記事が掲載されていることがわかった。浅沼氏と「民間伝承の会」との関係には浅からぬものがあったと思われ、今後の課題としたい。

三宅村教育委員会の加藤一則教育長をはじめ、教育委員会や観光協会の方々には、我々の滞在中の細々の点に至るまで面倒を見ていただいた。特に加藤教育長とは、資料整理の島民にとっての重要性について、有意義な意見交換を行うことができた。お世話になった方々に記して感謝の意を表したい。



写真3 三宅島郷土資料館の収蔵民具



写真4 三宅島鏑ヶ浜港の様子

## ■ 2019 年度の活動

○三宅島郷土資料館の資料整理作業 2019年8月28日～31日 三宅島郷土資料館 田上繁・越智信也、石川雄也・小野寺佑紀・佐藤夏美（院生）